

蓬萊町だより

第七十四号

平成21年1月25日
発行者 蓬萊町会
編集者 文化部

町内探訪(1)

甲冑師 加藤鞆美氏を訪ねて



町内探訪第一回目の今回は、昨年文京区より伝統工芸功労者の表彰をお受けになった甲冑師の加藤鞆美(ともみ)氏を訪ね、お話を伺いました。

区や都に伝統工芸として認められるには、百年の歴史があることが条件だそうです。素材に百年の歴史があり、作り方にも百年の歴史があるものが伝統工芸と呼ばれます。伝統工芸には様々なものがありますが、いくつか例を上げれば、甲冑、漆、蒔絵、銀器、木彫、大工、石工、

額縁、釣竿、織物、焼き物、等々です。これらの工芸の技、そしてその精神が世界をリードする日本の先端技術の基礎を形作っていると言っても過言ではないようです。

加藤氏は昭和九年東京市滝野川区(現在の北区)のお生まれです。加藤氏の子供の頃の滝野川には滝野川農園、牧場などがあり、滝野川ゴボウが名産だったとか。蓬萊町には、昭和四十年からお住まいになっています。

加藤氏は大正時代に活躍された祖父の代から数えて三代目で、作名は「三代目二世」です。「蒔絵師をしていた祖父(初代秀山)が近くの人が兜を作っているのを見て、自分でもできると思い、見様見真似で作り始め、日本橋の三越で売るようになった」そうです。

加藤氏は父親(初代一冑)の元で修行し、結婚を期に独立。しかし、小売店や百貨店に名前を覚えてもらうまでには十五年かかったとか。「工芸の技は、口で言っても、書いて渡しても、なかなか伝えきれない、やってみて、失敗し、体で覚えるもの」。一人前になるには十年単位の修行が必要なようです。

加藤氏のお仕事は、五月人形の兜の製作を中心に、時には古い鎧、兜の修理などもされるそうです。毎日、朝八時半頃から夜十時頃までが仕事の時間で、忙しい時には夜中の二時頃まで仕事をしていたこともあるそうです。

誕生した男子の子供に兜を作る習わしは鎌倉時代の頃に始まったようです。「生まれた子供に兜を作る慣習は日本独自のもの。昔の武家は実物大のものを作って家の外に飾っていたが、時代が経つにつれ、ミニチュアにして家の中に飾るようになった。最近は簡単に出入りができるように、鎧を省いて兜だけになった。当初は武家だけだったが、明治になって商家にも広がり、一般家庭にも広がったのは戦後のことだ」とか。

加藤氏が製作されている兜は、昔の武将が使った兜で現存するものをモデルにしているそうです。「関東では平氏より源氏の武將の兜に人気があり、源氏の頼義、義家、為朝、義経などの兜を主に作っている。戦争に鉄砲が使われる時代になると、肩から下の鎧は皆同じになったので、一目で誰かが分かるように、兜に特徴を持たせるようになった。山中鹿之助や本田忠勝の鹿の角をつけた兜や、熊の頭がついたもの、なまずの尻尾がついたもの、うさぎの耳がついたもの等、いろいろと個性のある兜が作られた」。



日本の甲冑には様々な材料、工芸技法が使われています。材料には、プラスチック、化学繊維、軽金属（アルミ等）以外のものは全部使われているそうです。主要な材料である革は、馬、牛、

ねこ、犬、やぎ、鹿、猿の七種類の革が適材適所使われていて、紐の染め、紐の組み、漆塗り、革のなめし、金メッキ、などの工芸技法が使われています。「日本の甲冑は世界で一番綺麗だ。西洋の甲冑は金物だけでできているが、日本の甲冑は鉄、非鉄金属（銅、真鍮）、貴金属（金、銀）の他、漆、紐、革など様々な材料、技法が使われている」。日本の甲冑はただ機能的なだけでなく、芸術的とも言える美しさを持っています。

鎧の主要な部分は硬い革（コザネと呼ぶ）を紐で組み合わせ作ってあります。「馬と牛の革は硬い。鎧のコザネには主に牛革を使い、コザネを綴じるのは薄いネコや犬の革を使う。鹿の革は繊維に縦、横がなくてやぶげにくい。コザネは革とは思えないほど硬くて丈夫で、そしてなおかつ軽い」。敵の刃を受け止める鎧の主要部分が革で作られているのは驚きました。

昔から伝わる工芸技法には、緩まない紐の組み方、色の落ちない染色など、現代から見ても優れたものが多いようです。「昔の鎧の修理などをやっている、どうやって作ったか分からないものが多く謎だらけだ。その謎が解けて、使っている素材や技法が解ったときは一番楽し

い」という言葉が強く印象に残りました。

お聞きした話の中で、興味深く思った点を以下にまとめて紹介します。

・なめし

なめしは革を柔らかくする技法で、現在は薬品を使った「薬品なめし」が主流だが、昔から使われている「脳なめし」は薬品なめしではできない優れたところがある。「脳なめし」という方法は、動物を一頭殺して脳を取り出し、脳を腐らせて、その中で革をもんでなめすやり方です。猛烈にくさい臭いですが、「脳なめし」だと、ゼラチン質が抜けないので、濡れると硬くなる特性がある。

・金メッキ

金メッキは、今は電気を使ってメッキをするが、昔は水銀を使ってメッキしていた。この水銀を使ったメッキの方法は「けし」と呼ばれている。この方法では、金を水銀に溶かして塗り、塗った後、熱処理をして水銀を飛ばし、金だけを残す。金の食いつきが良くて、今の電気メッキより厚く着く特徴がある。

・漆（うるし）

漆は英語で「Japan」と呼ばれ、古来より日本で塗料や接着剤として使われてきました。古墳時代にすでに極の塗装に使われています。漆は、水・熱・酸・アルカリに強く、

塗料として耐久性に優れています。

・紐の組

紐の組み方にもいろいろなやり方があり、どんなに動いても緩まないように組んである。接着剤などなかった昔は紐組というのは物を留める重要な技法だ。

・脇差

脇差というのは、脇にさしたから脇差と呼ぶのではなくて、止どめを刺すための刀だ。戦で倒した相手の止どめを脇から刺したことから「脇差」という名前がついた。脇差は鎧の下の胸の前に差していた。

・太刀と刀

太刀は腰からぶら下げる（佩くと言う）もので、刀は帯に差すもの。馬上で弓矢や刀を使って戦う時代は太刀を佩き、徒歩戦争の時代になると太刀では歩くのに不便なので刀を帯に差した。

・最後に問題

十センチの長さのものを物差しで簡単に十三等分する方法は？

10 ÷ 13 = 0.7692... 物差しで 0.7692 ずつ目印をつける。そんな面倒なことをやらなくても、平行線を引いて物差しを斜めに当てれば簡単に十三等分できます。できましたか？

「若頭奮闘記」

大熊敏幸

若頭！誰が、俺が？、まさか？大畑実行委員長からの電話は、祭礼の仕来りや、他町会との打合せ等を若い町会員に伝承するために、若頭制度を今年の祭礼から実行したいとの内容で、委員長の熱い要請を「任せてください」とは言えないものがあつた。

仕来りと言つても祭礼の参加は、前回の三百年祭が初参加のようなもので、わからないことだらけである。薄れゆく記憶のなかで思い出してみると、御神酒所の場所や、祭壇の飾り、寄付金の受付、御輿の巡行、一本締めの手拍子の音、調子等がかすかな記憶によみがえる。大畑委員長からは、細かい点は色々あるが諸先輩が経験している事を教えて下さるとのこと、若頭になることを了承した。他町会との協議は、東片北町会、肴町、浅嘉町会が中心になり、連合の時間、御輿の順位、接待方法等細かい打合せに出席協議を重ねた。

祭礼当日根津神社の禰宜により御霊入れを行い、子供山車、御輿が発券する。若頭が音頭をとり巡行するが拍子木のたたく調子を速くする様注進があつた。しかし手のスピードが速くならない、大人御輿までには直さなければいけない

いと思ひ終盤までには上げていった。

午後はいよいよ連合大人御輿だ、台が高い！周りの役員に助けられ台の上に立つ、担ぎ手が御輿に集まる「ヨ〜カンカンカン・・・」本締めをすると歓声とともに御輿が揚がる、自分ほどの様に台から降りるのやら滑る様に飛び降りる。御輿を降ろすときはさらに難しい、波のように台に向かつてくる御輿を正面に誘導し最高潮時に木を入れる。

連合時には雨が流るように降り、着物が肌張り付き足が上がりず台は塗りで滑る、身体も冷えたがあと一息、御神酒所前で納めの木を入れ御輿を降ろすことが出来た。

祭礼の期間を無事に終了することが出来たのも諸先輩のご助言、激励があつたらばこそで感謝する次第であります。

祭礼を実行するには多くの人々の協力が必要です。次回の祭礼も皆様のご参加をよろしくお願いいたします。



蓬萊句壇

- | | |
|----------------|--------|
| 肩寄せて花野の小径ラブソング | 池田南北 |
| 本郷は公孫樹に更けて月を待つ | 小野何雪 |
| 旅にして行く先々に地蔵盆 | 彦坂つぐを |
| 淋しげに一步前散る桐一葉 | 岡田栄子 |
| 湯上がりの襟足に知る秋の風 | 福山七重 |
| 桐一葉過去完了を知らされり | 井上静雄 |
| 花の名は知らず花野の中にあり | 武川としを |
| 闇透かす巡視の灯りそぞろ寒 | 津久井うさぎ |
| 六義園ライトアップの灯の寒し | 青木沖寿 |

町会活動の概要

平成20年4月から
平成20年11月まで

- 平成20年
- 4 / 4 文京つつじ祭開苑式 根津神社
 - 7 / 7 「交通部」春の交通安全運動 7日〜15日
 - 7 「防犯部」駒込防犯協会全体会議
 - 16 根津神社つつじ祭警備
 - 22 「婦人部」日本赤十字献血
 - 23 「交通部」駒込交通安全協会総会
 - 5 / 2 蓬萊友の会総会
 - 9 文京区合同水防練習 教育の森公園
 - 12 青少年対策向丘地区委員会総会
 - 15 本郷防火防災協会総会
 - 19 「婦人部」くすのきの郷・洗濯物たたみ
 - 19 文町連総会
 - 21 向丘地区町会長会総会
 - 28 「防犯部」駒込防犯協会総会

- 6/3 「婦人部」駒込母の会総会
- 4/4 蓬萊町会・生活安全部長賞受賞
- 16/16 「交通部」駒込交通安全協会総会
- 22/22 「防犯部」駒込防犯協会全体会議
- 7/5 文京つっじ会総会
- 11/11 根津神社総会
- 23/23 「婦人部」根津神社つっじ苑除草作業
- 26/26 向丘地区青少年対策事業 六中プール開放
- 25/25 ホームレス猫対策協議
- 8/11 「婦人部」くすのきの郷・洗濯物たため
- 30/30 文京区総合防災訓練 六義園運動場
- 9/1 根津神社例大祭打合せ
- 5/5 「交通部」駒込交通安全協会理事会
- 8/8 「婦人部」文京釣友会手伝い 海蔵寺
- 12/12 「婦人部」敬老の口お祝品配布
- 12/12 「防犯部」駒込防犯協会全体会議
- 18/18 「婦人部」文京区町会連合会研修会
- 20/20 平成20年度根津神社例大祭 20・21日
- 20/20 「交通部」秋の全国交通安全運動
- 1/1 22～30日 かねこ前交差点・街頭指導
- 1/1 「婦人部」日本赤十字 役員会
- 1/1 向丘地区町会長会議
- 3/3 学校支援地域本部開設準備委員会
- 8/8 「防犯部」文京区地域安全の集い
- 9/9 第2回スクールガード情報交換会
- 13/13 「防犯部」防犯キャンペーン
- 17/17 「婦人部」赤い羽根募金
- 17/17 「婦人部」日本赤十字献血 東大農学部
- 26/26 ふれあい連合まつり 誠之小学校
- 26/26 「婦人部」駒本まつり手伝い 駒本小学校
- 5/5 「婦人部」駒込警察署・駒込母の会研修会
- 8/8 「婦人部」向丘地区連 婦人部バス研修会

平成20年祭礼 決算報告

収 入		支 出	
項 目	金 額	項 目	金 額
協賛金	1,658,000	神社関係	209,000
町会助成金	500,000	設営・その他	58,429
直会費他	66,000	御神酒所関係	449,217
		神輿渡御関係	607,208
		食事金返	240,976
		借入金	300,000
		直直	338,000
		神輿修理積立	21,170
合 計	2,224,000	合 計	2,224,000

上記の通り、平成20年祭礼の決算報告を致します。
 平成20年12月7日 町会長 本城 康俊之男 印
 監査の結果、上記決算書は正確に処理されていることを認め
 ます。 会計監査 関根 昌一 印
 平成20年12月7日

計 報

- 12/12 「婦人部」日赤 応急救護研修会
 - 12/12 「婦人部」本郷消防署・防火の集い
 - 20/20 「婦人部」防火防災協会視察研修会
 - 20/20 「婦人部」くすのきの郷 洗濯物たため
 - 21/21 「交通部」駒込交通安全協会理事会
 - 25/25 文京つっじ祭委員会 根津神社
 - 加藤 光政 様 53歳 向丘2-38-9
 - 室川 清 様 68歳 向丘2-15-8
 - 山中 繁一 様 88歳 向丘2-18-2
 - 武田 実 様 83歳 向丘2-26-13
- 心よりご冥福をお祈り申し上げます。

※お知らせ

◆駒本小学校避難所運営協議会の設置について
 住宅が倒壊するような大規模な地震が発生した場合、速やかに区立小中学校等に避難所を開設・運営することになっておりますが、駒本小学校を避難所とする運営協議会（蓬萊町、浅嘉町、香町、白山自治会の四町会と駒本小が運営母体）が発足（十二月二日に初会合）し、運営体制作り（本城町会長が会長に就任）、事前準備作業の検討が始まりました。
 ◆「お汁粉の会」の開催について
 恒例となりました「お汁粉の会」を三月に開催いたします。
 皆様、お誘い合わせの上、是非ご参加下さい。

編集後記

あけましておめでとうございます。
 昨年秋季から、世の中に不景気風が吹いておりますが、精一杯元氣を出して、今年も明るい希望の持てる年にしたいものです。
 今号より「町内探訪」と題した読み物を始めました。町内にお住まいの名人、師匠、先生と呼ばれている方や、町の歴史に詳しい方などを訪ねてお話を伺い、「蓬萊町だより」でご紹介していきます。普段何気なく見ている町に息づく文化や歴史を知るきっかけにして頂ければ幸いです。

編集委員 本城康至・坂本禎一・原通夫

和田わかな・猪熊良一